東京音楽大学付属民族音楽研究所主催

民族音楽等 社会人 特別講座

LESSON & LECTURE

実技と講義で学ぶ社会人のための音楽講座

TCM

邦楽器

日本の伝統楽器の世界を新たな視点から再発見

箏

古典曲、古典合奏を中心に、邦楽特有の＜間、ノリ、ユルミ＞を習得します。同時に＜音＞ の響きを意識し、余韻を重ねていく事により、自分の音で音楽を表現できるようになります。邦楽にとどまらず、洋楽にも視野を広め、邦楽との共通点、相違点を実感する事も大切な事です。様々な音楽に触れながら箏を学びましょう。

滝田 美智子：たきた みちこ

幼少より箏曲を二代目野坂操壽氏に師事。東京音楽大学卒業、邦楽演奏コース修了。二十五絃箏による5回のリサイタル他、[邦楽 Ensemble21] の立ち上げ等、箏、二十五絃箏の各種演奏活動。オーケストラアジアジャパンにて 13 年間ソリストを歴任。オーケストラとの協演も多数。ラ．フォル．ジュルネ 2019 で井上道義指揮新日本フィルハーモニー交響楽団と協演。東京音楽大学、国立音楽大学ほかで講師を歴任し、現在、東京音楽大学特任教授、桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授。

流派の違いに捕らわれず、受講者の希望を取り入れつつ、新しいチャレンジを含めた幅広い作品の個人レッスンです。またグローバルな視野で箏を奏でることで「日本の音・精神」を探り、次世代の音楽を考える機会と致します。

内藤 久子：ないとう ひさこ

東京音楽大学声楽科卒業 邦楽演奏コース修了。流派やジャンルを越えて、古典・現代作品・テレビ 番組出演・効果音等の録音・劇場公演をも含む演奏活動を行い、ボランティアコンサートも好評を得ている。声楽・琵琶歌・声明の発声や息遣いに基づいた「歌絃」(カゲン：絃に合わせて歌うこと) に取り組み、また雅楽・声明・スティールパン・ハーモニカ等多様なコラボレーションで独創的表 現を追及している。主に音楽教育者・学生を対象とした「日本の音」の様々な講座を企画統括し講義を行っている。

尺八

江戸時代から伝わる虚無僧音楽、特に海童道、横山勝也の流れを汲む古典本曲が学べます。全ての尺八音楽の原点である古典本曲は海外でも注目を集めており、近年、外国人愛好者が増えています。

柿堺 香：かきさかい かおる

青山学院大学理工学部物理学科卒業。横山勝也に師事。32 期 NHK 邦楽技能者育成会卒業。第三回 長谷検校記念全国邦楽コンクール尺八の部第 1 位。シャルル・デュトワ、岩城宏之指揮の NHK 交響楽団と武満徹作曲≪ノヴェンバー・ステップス≫共演。小澤征爾バースデーコンサートに武満 徹作曲≪エクリプス≫で出演。第三回ビクター邦楽技能者オーディション合格。現在、東京音楽大学講師、NHK 文化センター講師。

三味線

長唄三味線の基礎から始める古典曲目を中心にしたレッスンで、正しい三味線の奏法・演奏を学べます。しっかりとした基礎の骨組みの上に、新しい創造を広げていけます。

杉浦 孝夫：すぎうら たかお（芸名：杵屋五吉郎）

長唄三味線奏者。1975 年より芸術院会員・人間国宝 3 世杵屋五三郎に師事。1987 年東京芸術大学邦楽科卒業。同年、東京音楽大学に勤務。2001 年国立劇場歌舞伎公演『鳴神』の立三味線を務める。以後、中村勘三郎、福助、橋之助、勘九郎、七之助らの歌舞伎公演においても立三味線を務める。欧米諸国での海外公演（1993 ～ 2011）に参加。現在、東京音楽大学講師、朝日カルチャーセンター、東急 BE セミナー講師。長唄『杉の會』同人、社団法人長唄協会会員。著書に『和楽器教本 三味線：文化と楽器と演奏練習』（2006 年）がある。

菊地 大：きくち ゆたか（芸名：杵屋五三吉次）

10 歳より杵屋五三吉に師事。97 年東京藝術大学邦楽科入学。99 年三世家元杵屋五三郎師より、杵屋五三吉次の名を許される。01年東京藝術大学卒業。在学中に浄観賞、卒業時にアカンサス賞を受賞。現在、歌舞・舞踊・演奏公演、NHK ラジオ等で活動中。社団法人長唄協会会員。

琵琶

祇園精舎の鐘の声・・で知られる平家物語。その激しい源平合戦の様を表現する「崩れ」の奏法、ものの哀れや武門の悲劇を歌った「和歌」等を通じて、特徴のある琵琶の奏法を学び、歴史的ドラマを描く弾き語りの世界を体感してみませんか?薩摩琵琶五絃五柱鶴田流琵琶を学習します。

首藤 久美子：しゅとうくみこ

東京音楽大学卒業。薩摩琵琶を田中之雄氏に師事。ＮＨＫ邦楽技能者育成会 43 期修了。ＮＨＫ邦楽オーディション合格。第 39 回日琵琶楽コンクール第 1 位入賞、文部科学大臣賞・日本放送協会賞受賞。ＮＨＫＦＭ「邦楽のひととき」、ＮＨＫ教育ＴＶ「芸能花舞台」、国立劇場主催第 24 回「明日をになう新進の舞踊・邦楽公演」、第 162 回「琵琶の会」出演。2013 年 BBC 交響楽団、2014 年リヨン国立管弦楽団、2016 年プラハ放送交響楽団と武満徹「ノヴェンバー・ステップス」を演奏。オランダ、ベルギー、シンガポール、中国、ウズベキスタン等海外公演。東京音楽大学講師。

古楽器

ルネサンス・バロック楽器で優雅な音の世界を満喫

リュート・ビウエラ・バロックギター

本講座ではルネサンス・リュート、バロック・リュートなど、リュート属全般（※）の基礎的な奏法が学べます。楽器の構造やメンテナンスについても理解して、各楽器の演奏法だけでなく、各時代特有の装飾法、数字付き低音の読み方など奏法の変遷も習得します。さらに、希望者は他の楽器とのアンサンブルや歌の伴奏も学べます。リュート音楽の歴史的背景を学び、ヨーロッパ各国の楽曲や文献について図書館所蔵資料に基づいて研究するなど、基礎的知識を踏まえてリュート音楽を理解し演奏していきましょう。

※ルネサンス/バロック・リュート各種、ビウエラ、ルネサンス/バロック・ギター

坂崎 則子：さかざき のりこ

東京藝術大学大学院音楽研究科修了。在学中にデボラ・ミンキン氏よりリュートを学ぶ。エリザベス朝リュート音楽についての修士論文提出。西洋音楽史、教材研究などの講義で、ルネサンス・リュート、バロック・リュートの音楽について実践を交えながら授業を行っている。現在東京音楽大学客員教授。

水戸 茂雄：みと しげお

リュート属（リュート、テオルボ、ビウエラ、ルネサンス / バロック・ギター）演奏家。スペインに留学し国立オスカル・エスプラ音楽院，マドリード王立音楽院に学ぶ。これまでに「リュート 教則本」3 巻、『バッハ リュート作品集』などを出版し、CD ではバロックリュート、ルネサンスリュート、ビウエラ、テオルボなど多数録音している。東京音楽大学非常勤講師。国内外で、リュートの第一人者として演奏活動を行っている。日本ビウェラ協会理事、"N&S 古楽研究会主宰。

チェンバロ

チェンバロという楽器を正しく理解して、高度な演奏法を学びます。チェンバロの演奏を通じて、西洋古楽の神髄を極めてみましょう。初心者の方は別途ご相談ください。

坂 由理：ばん ゆり

東京藝術大学作曲科卒業。古楽研究会にてチェンバロ、通奏低音の研鑽を積む。作曲を石桁真礼生、チェンバロを鍋島元子の各氏に師事。04年、チェンバロのための"Prelude"により、アメリカのアリエノール作曲賞佳作受賞。06年、スペインの古楽フェスティバルFIMTEにて演奏会。共訳書としてE.バイアーノ「チェンバロ教本」（Ut Orpheus）共著書に「クレ・スタディ」（全音楽譜）その他。国立音楽大学研究所研究員、東京藝術大学声楽科伴奏助手を経て、東京音楽大学付属民族音楽研究所講師。

リコーダー
フラウト・トラヴェルソ

リコーダー

16-18世紀には、その独特の音色、旋律美の確立した独奏管楽器として、大変もてはやされました。当時の音楽様式を軸に、技術的な体系にもアプローチし、独奏ソナタのみならずカンタータや同族のコンソート、また現代の曲に至るまで、様々なシーンに対応出来るリコーダーの奥深い魅力を学習します。

フルート・トラヴェルソ

リコーダー同様バロック期に大活躍した、フルートの前身である１キーの横笛の楽器です。現代フルートから遡った音楽学的なアプローチの資料としても興味深く、当時の音楽で求められていた横笛の美意識を探求します。

器楽アンサンブル

ルネサンス・バロック時代に特化して、様式と楽器的アプローチに基づき通奏低音による小アンサンブル、リコーダーコンソート、管楽器＋声楽のコンソート等を学びます。

吉澤 徹：よしざわ とおる

東京音楽大学声楽科卒業。在学中、第5・6回全日本リコーダーコンクールにて優秀賞を受賞。1988年、CBS Sonyニューアーティストオーディションにおいて FM東京賞を受賞。90年代半ば、相前後して縦・横笛のオリジナル楽器を入手し、楽器と対話することにより独自の研鑽を積む。リコーダーとトラヴェルソ両面からバロック室内楽と現代作品を中心に公演、録音、楽器製作等、幅広く活動を展開している。現在、ムジカ・エランテ同人。東京音楽大学非常勤講師。

民族楽器

様々な民族の伝統楽器の世界は発見がいっぱい

トンコリ

樺太アイヌの伝統楽器トンコリ（５弦の竪琴）の演奏法を学びます。アイヌの音楽の中心は歌ですが、アイヌの歌も楽器演奏も、私たちが日常で知る音楽とは感覚的に異なる要素が多数あります。トンコリのほか様々な楽器や歌など、受講生の皆さんのその時々の関心に添いながら、アイヌ音楽を形作る人間本来の感性といったものに触れ、音楽のおもしろさを再確認したいと考えています。

千葉 伸彦：ちば のぶひこ

神奈川県在住。トンコリ演奏家・音楽学博士・本学研究所および大学院講師 1990 年からアイヌの古老達に伝統音楽の教えを受け、自らも歌唱法や演奏法を研究し、多数の伝承を復元した。現代に適応した伝統音楽の学習方法の研究により東京芸術大学にて学位を取得。ウポポイ（国立民族共生象徴空間）の音楽ディレクター、東京 2020 オリンピックのアイヌ側の音楽監督を歴任、札幌大学ウレシパクラブ、平取アイヌ文化保存会、東京のアイヌ文化交流センターなどで講師を務める。近年は研究活動の傍ら、ハウハウケの名でアイヌ音楽の表現方法の模索にも取り組む。著作（共著も含む）：『アクティブに楽しく学ぶ世界の音楽』（2023 年，音楽之友社）、『阿寒のうた（ウポポ）』(2012 年，クルーズ)、『The Ashgate Research Companion to Japanese Music』(2008 年，Ashgate Publishing)、『西平ウメとトンコリ』(2005 年，アイヌ民族博物館)、『北海道東部に残る樺太アイヌ文化１』(1996 年，常呂町樺太アイヌ文化保存会)

シタール

教養コース

調弦や右手の基本で始まり、初歩的な曲が弾けるようになります。

研究コース

レベルに合った即興的演奏が学べます。インド音楽の神髄を味わいながら、インドらしい音楽表現を楽しみましょう。

小日向 英俊：こびなた ひでとし

1980 年国立音楽大学楽理科卒、1987 年インド国立バナーラス・ヒンドゥー大学大学院（音楽学専攻）修了（M. Phil.）。1977 年よりスシュマ・オマタ、1982 年よりクリシュナー・チャクラヴァルティにシタールを師事。東京音楽大学教授。世界音楽をテーマとした講義と実習を担当。シタール演奏、執筆などを行う。1993 年よりインド音楽演奏グループ、バナーラス・ミュージック・サークル主宰。2005 年、ソロ・アルバム『月明かりの下で　Under the Moonlight』をリリース。また、譚盾作曲≪マルコポーロ≫その他の現代作品にも関わる。

馬頭琴

民話「スーホの白い馬」を通じて日本人にも有名なモンゴル伝統楽器の演奏を基礎から丁寧に学び、モンゴル文化に触れます。馬頭琴独特の演奏法を身につけながら、実力に応じた楽曲が演奏できるようになります。

美炎：miho

幼少期よりバイオリンを始める。18 歳で馬頭琴と出会い、馬頭琴の国家一級演奏家チ・ブルグッドに師事。その演奏を馬頭琴の人間国宝チ・ボラグに認められ、モンゴル馬頭琴アンサンブル最高峰、野馬アンサンブルの主要メンバーとして中国国内、モンゴル、台湾で演奏を重ねる。NHK 交響楽団等、国内一流オーケストラの奏者との共演の他、ロック、ポピュラー音楽、民族音楽のミュージシャンとも数多く共演。現在までにオリジナル曲中心のアルバムを 4 枚リリース。プリンセスクルーズでのレクチャー演奏、栃木県の山の棚田での演奏会は毎年好評を博し、メディアでも数多く取り上げられている。千葉市文化振興財団登録アーティスト。

コムズ

キルギス共和国の伝統楽器コムズは、あんずの木をくり貫いて作った三弦楽器で、船を漕ぐオールに似た形をしています。まるで小さな鳥が飛びまわるような、かわいらしい右手の動きに特徴があります。本講座では、基本的な演奏を身につけられます。上級者になれば、この楽器を自由に操り、アクロバット的演奏ができます。

ウメトバエワ・カリマン：Umetbaeva Kalyiman

キルギス共和国ビシケク出身。三弦楽器のコムズ、金属口琴、木製口琴などの楽器の演奏家。キルギス国立音楽大学で民族音楽を専攻。卒業後、音楽教師としてビシケク第 65 番学校で子供たちにコムズなどの民族楽器を教える。ビシケク日本センターで日本語を学ぶ。2007 年東京芸術大学音楽研究科に入学し 2010 年修士課程修了・2013 年度楽理科博士号を取得。東京音楽大学非常勤講師。

口琴＆のどうた

アジア・ヨーロッパ・太平洋地域各地の口琴音楽や、アジア中央部などの喉歌（倍音唱法）を学べます。倍音をうまく活用する様々な現象や楽器に触れることで、まったく新しい音楽の世界が広がります。詳細はご相談ください。

直川 礼緒：ただがわ れお

1959 年金沢出身。1984 年タンザニア・ドドマ地区の村に住み、ゴゴ族の大型親指ピアノ「イリンバ」を習得。日本口琴協会代表、国際口琴協会理事。ロシア連邦サハ共和国をはじめ、ノルウェー、オーストリア、アルタイ共和国など口琴フェスティバルや民族音楽シンポジウムに参加。口琴奏者招聘公演の企画・制作も多数実施。2011 年第 7 回国際口琴大会（サハ共和国）コンテストで、9 名の「世界口琴名人」の一人に選ばれる。CD：「西比利亜 発 電脳空間 行」（2011）、著作：「口琴のひびく世界」（2005）など。

月琴

17世紀から18世紀に長崎へ伝えられ、日本でも人気を得た明楽と清楽の代表的な楽器、月琴を学びます。講座では、幕末・明治時代に日本で製作したもの、またはこれらを復元したものを使用します。月琴を弾きながら演奏する唄も習えます。中国にルーツを持ち、日本でも一定の人気があった音楽について、実践しながら学びましょう。

稲見 恵七：いなみ けいしち

富山県魚津市出身。尺八を邦山会で都山流を学び、二胡・胡弓・地唄三弦を坂田古典音楽研究所で学ぶ。月琴奏法は長谷川敏幸氏より学ぶ。明清楽楽器に魅了され長谷川氏と共に明清楽資料を精力的に収集。2004 年には琉球御座楽復元演奏研究会の依頼により、長線（阮咸）・月琴・四線・胡琴を製作。伊福部昭先生が遺された明清楽楽器と御座楽楽器の共通性を見いだし、当研究所の公開講座「伊福部昭の遺した楽器～明清楽楽器を聴く～」で講師を務める。

二胡

日本でも人気の中国伝統楽器、二胡の基本的なテクニックと、代表曲が習得できます。教養コースでは基本から初めて、この楽器の特徴的な演奏法まで学べます。研究コースでは少し難しい曲を選択して、地域による演奏方法の違いなども学べます。曲例を通して、総合的な演奏技術と音楽表現法を習得できます。

劉 継紅：リュウ・ケイコウ

国立中国音楽学院及び中央音楽学院卒業。中国音楽学院客席教授・首都師範大学客席教授・二胡検定公認審査員。2000 年 9 月上海市人民政府より「栄誉証書」を受ける。中国電影楽団民族オーケストラのコンサートミストレス兼ソリストに就任。1987 年に来日し東京芸術大学を経て東京音楽大学で作曲家伊福部昭氏に師事。「少林寺」「西遊記」など 100 本以上の映画音楽の制作・演奏に参加。CD：「水郷歓歌」(1978)、「中国の美音」(1993)、「宮沢賢治の世界」(2000)、教則ビデオ「劉継紅の二胡入門」(1996)、「劉継紅の二胡実技」(1998) など多数。

琴（七絃琴 古琴）

琴は豊かな文化的歴史的背景を持つ中国起源の伝統楽器です。国家の統治をも左右する「礼楽思想」、また文人の嗜みである「琴棋書画」の筆頭を飾る「修身養心」の音楽芸術として古来より尊ばれてきました。琴の演奏技は2009年にユネスコの無形文化遺産に正式登録されています。本講座では琴の基本奏法を習得し伝統的「琴曲」の弾奏を目指します。

飛田立史：ひだ たつし

琴人。福島県生まれ。1979年日中友好協会派遣により渡中。北京語言学院修了。1986年北京大学歴史系卒業。大学在学中より中国芸術研究院音楽研究所の王迪（1923-2005）教授に古琴を師事、管平湖（1897-1967）の琴統を学ぶ。86 年－88 年中国政府奨学金留学生として上海音楽学院音楽研究所に留学、林友仁（1938－2013）教授に師事する。日本人として戦後の中国にて正式に入門し古琴を学んだ草分け。

龍笛

雅楽は、奈良平安時代またはそれ以前から演奏されてきた様々な音楽を総称したものです。日本においては仏教の声明（しょうみょう）に比肩する長い歴史があります。その音楽内容はアジアに広く淵源があり、インド、西域、中国、朝鮮、日本等の各地域の音楽を凝縮して現代に伝えています。龍笛は、雅楽伝承の基礎をなす三種の管楽器の一つです。本講座では楽器の旋律を唱える唱歌（しょうが）を覚えながら龍笛の奏法を習うことを中心とし、それに付随して歌物（うたもの）も修得します。受講生は初学者用の樹脂製龍笛と中小曲龍笛譜を基本的に用います。講師は、雅楽の歴史や理論、時事ニュース、演奏会・展覧会情報、参考書等を紹介したり、雅楽について調べたり鑑賞したりするための手引もいたします。

鳥谷部 輝彦：とりやべ てるひこ

東京藝術大学大学院博士後期課程単位取得後退学。2009 年に博士（音楽学）取得。雅楽と七絃琴の研究に取り組む。宮内庁式部職楽部の元楽師等に師事して、龍笛を始め雅楽全般の実技に研鑽を積む。また、日本・中国の音楽家に師事して七絃琴や江南紫竹などを学ぶ。国内外で体験講座や演奏、資料調査等を行う。当研究所の公開講座「伊福部昭の遺した楽器～明清楽楽器を聴く～」にて明楽・清楽の笛奏者としても出演した。

パンフルート

パンフルートは世界最古の管楽器と言われ、
歴史は古代ギリシャに遡る。ギリシャ神話に登場する
牧神パンが吹いていた楽器とされている。ルーマニアでは民族楽器として大切に演奏されてきた。素朴で美しいパンフルートの音色を奏でてみませんか。本講座では、パンフルートの基礎的な奏法を身につけ、『ルーマニア民謡』の演奏を目指します。詳細はご相談ください。

咲久徠史子 （さくらふみこ）

パンフルート、作曲
8歳からパンフルートを始める。パンフルートの音色に魅了され演奏を開始。本場ルーマニアにてパンフルート奏法を学ぶ。2016 年より作曲活動を開始。2022 年 6 月に日本で初となる自身が作曲したパンフルート曲集 flûte de pan japoNAIse No.1・Fumiko Sakura を出版。ルーマニア、モルドバ、ノルウェー、韓国を始め世界中で作曲作品が公演で取り上げられている。2019 年に在ルーマニア日本大使公邸にて 2 日間に渡りパンフルートリサイタルを開催。師匠のラドゥ・ネキフォルと共演を果たす。FETS2021 シビウ国際演劇祭にアジア人パンフルート奏者として初の出演を果たす。青と緑のあいだにと題した自身が作曲した 5 曲を披露した。第 14 回ルーマニア国際音楽コンクールにてオーディエンス賞受賞。ルーマニア大使館公認日本ルーマニアパンフルート協会を設立。トート音楽院渋谷講師。東京音楽大学付属民族音楽研究所講師。成蹊大学パンフルートグループ講師。よみうりカルチャー荻窪講師。Radu Nechifor（ラドゥ・ネキフォル）氏に師事。

各種民族太鼓

立つ座るなど日常生活の所作から生きること総てに、人それぞれが持つリズム感が溢れています。その基本動作が作り出すリズム感に気付き、解放された響きとは、リズムの本質とは何かを様々な民族打楽器を通して学び、更には前向きな発想、生命力の根源にまで迫っていきます。

有賀 誠門：あるが まこと

幼少よりヴァイオリンとピアノを学ぶ。東京藝術大学打楽器科卒業。ＮＨＫ交響楽団主席打楽器奏者として18年間活躍する傍ら、ソリストとしてＮ響、東フィル、都響、読響などと多数協演。打楽器音楽や現代音楽の初演を数多く行い、ロシア・ヨーロッパ・アメリカ・東南アジアなどでも活躍。東京藝術大学と東京音楽大学の教授として長年後進の指導にあたる。国際コンクール審査員・指揮者・プロデューサーとしても活躍。各地でリズムセミナーを実施。最近、音楽療法の分野での活動も多く、ダウン症の子供達との協演も行う。

※楽器はイメージです

ガムラン

ジャワ島のガムラン音楽が体系的に学べます。レッスンでは習得の難しい楽器・パートも個人レッスンで練習でき、個々のニーズに合った指導が受けられます。他分野とのコラボレーション、社会との接点など、より多角的な視点でガムランの可能性に触れられます。

木村佳代：きむら かよ

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。在学中よりガムラン音楽を学び、その後インドネシアに通い、2007 年インドネシア国立芸術大学 ISI スラカルタ校にて更に研鑽を深める。1997 ～ 2001 年、東京音楽大学社会人講座「ガムラン音楽教室」非常勤研究員。2010 年より同大学非常勤講師。ガムラングループ「ランパンサリ」代表。NPO 法人日本ガムラン音楽振興会理事。長年にわたり演奏活動、公演企画、指導に携わる。共著：『インドネシア芸能への招待　音楽・舞踊・演劇への世界』、東京音楽大学付属民族音楽研究所講座『ガムラン入門』

ガムランの青銅打楽器１０種類及びクンダン(太鼓)が一通り演奏できて、合奏の指導ができるレベルを目指します。

樋口なみ：ひぐち なみ

東京音楽大学中退。在学中より日本ガムラン教育の第一人者、佐藤まり子女史よりガムラン音楽の指導を受ける。以後定期的にスラカルタ市に通い王宮や国立芸術大学教官等よりガムランを学んだ後、演奏活動を行う。1997 ～ 2007 年東京音楽大学民族音楽研究所非常勤研究員。2010 年より同大学非常勤講師。1999 年『ジャワガムラン スラカルタ編Ⅰ/Ⅱ』(4 枚組 CD、同研究所協賛) 制作に参画。NPO 法人日本ガムラン音楽振興会理事。共著：東京音楽大学付属民族音楽研究所講座『ガムラン入門』

ジャワ舞踊

ジャワ島の伝統舞踊における女性舞踊を中心としながら、優型の男性舞踊も学べます。ゆったりとした下に向かう動きが中心となる舞踊の練習を通して、ガムラン音楽の「拍」と舞踊の深い関わりを学び、生のガムラン演奏といっしょに群舞の楽しみが体験できます。

針生 すぐり：はりう すぐり

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。大学在学中より、田村史子氏に師事、スラカルタスタイルのジャワ舞踊を学ぶ。1997 年～ 2000 年 STSI(現 ISI) インドネシア芸術大学スラカルタ校舞踊科在籍。2001 年より東京音楽大学社会人講座ガムラン・ジャワ舞踊講師、同大学非常勤講師。2008 年より田村史子氏主宰のガムランスタジオ音工場にて舞踊講師を務める。共著：東京音楽大学付属民族音楽研究所講座『ガムラン入門』

講座概要

邦楽、古楽及び民族楽器（以下「民族楽器等」という）を習得しようとする社会人が、個人レッスン（含むアンサンブル）でそれぞれの実技を学ぶとともに、共通講義で世界音楽の理論と実践を幅広く学んでいく。
なお、本講座の「教養コース」または「研究コース」を２年以上受講した者は、「実技専修コース」を選択することができ、個人レッスン（含アンサンブル）でそれぞれの実技を深めていく。

1. コース

本講座は、以下の三つのコースに分かれている。

1) **教養コース**　：原則としてレッスンを受ける楽器の初心者を対象とする。
2) **研究コース**　：原則としてレッスンを受ける楽器の経験があり、自らの演奏技術をより高めたい者を対象とする。
3) **実技専修コース**：本講座の「教養コース」または「研究コース」を２年以上受講した者で、レッスンのみを希望する者を対象とする。

2. 募集人数

各コース15名程度

3. 受講期間

1年間

4. 開講時間

1) 教養コース	個人レッスン：年間25回、1回40分、担当教員と個別に相談の上詳細を決定する。 講　　義：年間20回、1回80分。火曜日18:30〜19:50
2) 研究コース	
3) 実技専修コース	個人レッスン：年間25回、1回40分

5. 受講について

受講者は、当該コースのレッスンと講義受講を完了した際に、修了発表会において演奏認定試験を受けることができる。
演奏認定試験および講義において課せられるレポートが、当講座で定める水準に達した者に、修了証を発行する。

6. 申込資格

18歳以上の社会人の方

7. 申込手続き

1）教養コース　　2）研究コース

① 受講希望者は申し込み書類を民族音楽研究所まで請求すること。
② 受講希望者は下記の書類を一括して郵送すること。
③ 申込書提出後、本学より送付される振込用紙で審査料10,000円を納入すること。
④ 審査料の振込が確認され次第、面接票・面接日時を記した文章を郵送する。

3）実技専修コース

入学願書のみ提出する

必須書類など	記入要領など
面接票	所定用紙に記入する。写真貼付。
入学願書	所定用紙に記入する。氏名は戸籍と同一のこと。写真貼付。
履歴書	所定用紙に記入する。音楽修学歴は高等学校以降、師事した教師名、及び指導を受けた楽器名を記入する。

注意事項　・いったん提出した書類、審査料は理由の如何にかかわらず返還しない。
・身体に障がいがあり、面接上特別な措置が必要な場合は申込時に付属民族音楽研究所に申し出ること。
※申込書等に記載された個人情報は、本講座に関する業務以外には使用しない。

8. 申込期間

第１次募集：2024年1月　9日(火) 〜 2月9日(金)
第２次募集：2024年2月19日(月) 〜 3月9日(土)　※締切日消印有効

9. 申 込 先

東京音楽大学付属民族音楽研究所
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-11-1
Tel. 03-3981-8783

10. 面接について

教養コース：面接　志望理由等
　　実技　任意の楽器、または歌唱による自由曲1曲を演奏、受講希望楽器以外の楽器でもよい。
　　なお面接演奏では楽器は貸与しない。
研究コース：面接　志望理由等
　　実技　受講希望楽器による自由曲1曲を演奏。なお面接演奏では楽器は貸与しない。

11. 面接日時

第１次募集：2024年3月4日(月)　19:00　※詳細（集合時間、集合場所等）は後日連絡する。
第２次募集：2024年4月1日(月)　19:00　※面接票は面接時に必ず持参すること。

12. 受講の可否

面接当日に受講の可否を発表します。その際、手続に必要な書類を配布します。

13. 受 講 料

受講決定後、本学より指定された振込方法にて振込期間内に納入すること。
（振込方法は後日連絡する）

※納入した受講料は理由の如何にかかわらず返還しない。

コース	受講料(税込)
教養コース	285,000円
研究コース	285,000円
実技専修コース	198,000円
修了演発表会費	10,000円

14. 手続き書類

受講決定日に以下の手続き書類を配布するので手続き期間内に民族音楽研究所宛に返送すること

１．誓約書　1通（本学指定用紙）
２．氏名・現住所を確認できる書面（運転免許証・健康保険証などのコピー）1通

※ 学生旅客運賃（学割）は適用されない。
※ 個人レッスンの日程は、担当教員と個別に相談の上決定する。
※ 開講日・講義日程は後日配布する。

15. 講座担当教員

民族楽器	月琴	稲見 恵七	邦楽器	箏	滝田 美智子、内藤 久子
	トンコリ	千葉 伸彦		三味線	杉浦 孝夫、菊地 大
	二胡	劉　継紅		琵琶	首藤 久美子
	馬頭琴	美炎		尺八	柿堺 香
	コムズ	ウメトバエワ・カリマン	古楽器	リコーダー　フラウト・トラヴェルソ	吉澤 徹
	シタール	小日向 英俊		チェンバロ	坂 由理
	口琴・のどうた・親指ピアノ	直川 礼緒		リュート「ルネサンス、バロック」	坂崎 則子、水戸 茂雄
	各種民族太鼓	有賀 誠門		ギター「ルネサンス、バロック」	水戸 茂雄
	ガムラン	木村 佳代、樋口 なみ	民族舞踊	ジャワ舞踊	針生すぐり
	琴学	飛田 立史	講座	小日向英俊ほか、実技教員	
	龍笛	鳥谷部 輝彦	※ここに表記していない楽器は、2024年度は開講いたしません。 ※上記の講師と共にアシスタント講師が指導にあたる場合があります。		
	パンフルート	咲久徠 史子			

16. カリキュラム

教養コース

授業科目	回数
器楽実習（初級）	年間25回
世界音楽入門	年間20回
修了発表会（費用：10,000円）	1回
学外実習（施設見学）（実費）	1回

研究コース

授業科目	回数
器楽実習（中・上級）	年間25回
世界音楽入門	年間20回
修了発表会（費用：10,000円）	1回
学外実習（施設見学）（実費）	1回

参考　昨年度講義カリキュラム

第1回	講義「世界音楽入門」	第11回	世界の音楽 8：欧州 -3
第2回	世界の音楽を知る	第12回	世界の音楽 9：欧州 -4
第3回	音楽の理論と実践	第13回	世界の音楽10：中央アジア
第4回	世界の音楽１：南アジア -1	第14回	世界の音楽11：アフリカ
第5回	世界の音楽２：南アジア -2	第15回	世界の音楽12：東南アジア -1
第6回	世界の音楽３：東アジア -1	第16回	世界の音楽13：東南アジア -2
第7回	世界の音楽４：東アジア -2	第17回	世界の音楽14：西アジア
第8回	世界の音楽５：北東アジア -1	第18回	世界の音楽15：北東アジア -2
第9回	世界の音楽６：欧州 -1	第19回	日本の音楽教育と世界の音楽
第10回	世界の音楽７：欧州 -2	第20回	概括

本講座は、楽器演奏のエキスパートによる**個人レッスン**と、多様な講師陣による**共通レクチャー**で構成する、社会人対象の音楽講座です。
演奏を習得する**「習う」**と知識を深める**「学ぶ」**により、様々な音楽の**"総合的な学び"**を提供します。
本講座では、世界の音楽の中から日本やアジア、欧州の古い時代の音楽が学べます。

古楽器
リュート
バロックギター
ビウエラ　リコーダー
フラウト・トラヴェルソ
チェンバロ

邦楽器
琵琶
尺八
三味線
箏

民族舞踊
ジャワ舞踊

民族楽器
トンコリ
二胡　口琴　琴
月琴　コムズ　龍笛
馬頭琴　パンフルート
シタール　ガムラン
各種民族太鼓

	募集人数	履修期間	共通レクチャー	個人レッスン※1	受講料税込
教養コース	15名	1年間	80分×20回	40分×25回	¥285,000
研究コース	15名	1年間	80分×20回	40分×25回	¥285,000
実技専修コース※2	15名	1年間	――――	40分×25回	¥198,000

※1 担当教員と個別に相談の上、詳細を決定します　※2 本講座の「教養コース」または「研究コース」を２年以上受講した者で、レッスンのみを希望する者を対象とする。

受講者は、該当コースの受講を完了した際に、修了試験を受ける事が出来ます。
演奏が一定の水準に達した受講者には、修了証を発行します。
尚、修了試験 兼 発表会の出演料として10,000円がかかります。

申し込み日程 / 教養コース・研究コース

第１回募集
申込期間 ：2024年1月9日(火) ～ 2月9日(金)
面 接 日 ：2024年3月4日(月) 19:00

第２回募集
申込期間 ：2024年2月19日(月) ～ 3月9日(土)
面 接 日 ：2024年4月 1日(月) 19:00

お問合せ・お申し込み

東京音楽大学付属民族音楽研究所
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-11-1
H P：https://tcm-minken.jp/
TEL：03-3981-8783

地下鉄副都心線：雑司が谷駅2番出口（千歳橋スポーツセンター）より徒歩7分、1番出口より徒歩5分
JR山手線：池袋東口より徒歩12分